

自家農園のある“集いの場”……みんなの家



集いの場 1・2 中央梁下にケンドン戸を入れて間仕切ることが出来る



調理室から集いの間を見る

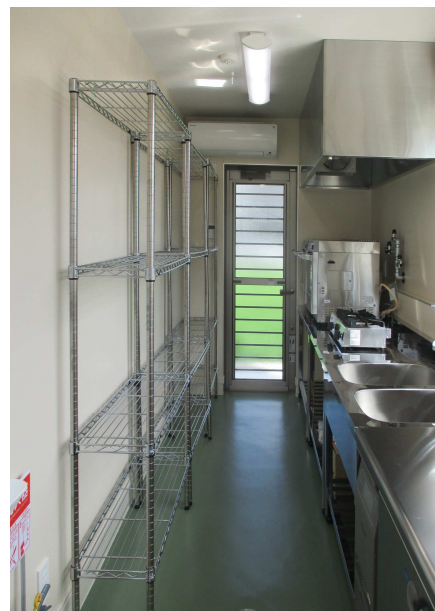


右側出入口の向こうは自家農園畑



手前の自家農園畑に面した“みんなの家”

友人のデザイナーから誘われて設計協力した大阪南部にある私鉄終着駅から歩いて、ほんの数分の位置にある農作地を区画整理で開発された一画に建った障害者やボランティアが集える福祉施設である。実は発注者も、ご高齢の障害者で以前勤めていた喫茶店での思いから、自身でコーヒーを淹れ皆でワイワイガヤガヤ出来る“場”から障害者の働きに寄与できないかとの思いがスタートとなった”家”である。とは言え、ウッドショックにウクライナ情勢と重なる物価高の影響で建設費のUPもうなぎ登り……。一旦設計を終えた障害者支援施設を併設したプランは、工事見積から断念し、新たに規模を絞り込んで何とか完成できたシンプルな建物である。残念ながら発注者は完成前に亡くなられたが実弟ご夫婦が意志を継がれて運営されている。



レンタルキッチンが可能な調理室